綴・見立帖

安東家

本籍地　大分県豊後高田市長岩屋
旧　西国東郡西都甲村大字長岩屋
江戸時代　豊後国国東郡長岩屋村

2026年10月5日

見本　家の名と本籍は架空　資料と調査内容は実在

目次

調査結果

1 全国の安東
2 大分県の安東
3 本籍の周りの安東
4 長岩屋と都甲のあゆみ
5 近代の名簿
6 菩提寺と考えられる寺
7 江戸時代の村と家
8 中世・戦国の記録
9 土地に伝わる話
10 家の起こりについての考察
11 まとめ
注 図表の説明
注 資料の確認状況
付表 本籍の周りの安東（続き）
注 出典

この見立帖について

この見立帖は、戸籍をお預かりする前の段階で、これまでに分かったことをまとめたものです。安東という姓の広がりや、本籍のある長岩屋と都甲の村の成り立ちをはじめ、近代の名簿、菩提寺と考えられる寺、江戸時代の村と家、中世・戦国の記録、土地に伝わる話までを取り上げています。現在から過去へ順に遡りながら家の起こりを整理し、今後の調査を進めるかどうかをご判断いただくための資料です。

調査結果

1　全国の安東

安東という姓は全国に約1万6,700人おり、姓の人数では1,057位にあたります。都道府県別では、大分県が約4,600人で最も多く、岡山県が約2,500人、兵庫県が約1,300人、大阪府が約1,200人、福岡県が約1,100人と続きます。

市区町村別では、大分市が約2,600人で全国最多です。次いで、臼杵市が約900人、岡山県の津山市と岡山市が各約400人、豊後高田市と別府市が各約300人となっています。安東は、大分県と岡山県の美作から備前にかけての二か所に多い姓だといえます。本籍地の長岩屋を含む豊後高田市は、全国でも安東の多い市の一つです。



安東　全国 約16,700人（1057位）

0　1〜29　30〜69　70〜99　100〜299　300〜

大分県	約4,600
岡山県	約2,500
兵庫県	約1,300
大阪府	約1,200
福岡県	約1,100
東京都	約800
神奈川県	約600
愛知県	約500

図1 安東の都道府県別の人数。色が濃いほど多い。注1

2　大分県の安東

豊後高田市の安東は約300人で、大字・字別に見ると、来縄 約50人、佐野 約40人、小田原・美和・蕗 各約30人と、市南部の桂川流域に集まっています。本籍地の長岩屋にも安東がいます。長岩屋のある都甲の谷では、一畑と荒尾にも安東がいます。

字	人数（推計）	所在
長岩屋	ごく少数	ご本籍のある字
一畑	約10	都甲の谷の東側。本籍地から約3.5km
荒尾	ごく少数	都甲の谷の西側。本籍地から約5.2km
来縄・来縄上南・来縄雲林	約70	桂川の流域。本籍地から約10km
佐野・佐野西川丸山	約40	桂川の流域。天正8年（1580）の書状に出る鞍懸の土地。本籍地から約9.4km
小田原	約30	本籍地から約6.6km
美和	約30	本籍地から約8.1km
蕗	約30	田染の大字。本籍地から約4.6km
嶺崎	約10	田染の大字
高田西新・高田是永	約10	市の中心部。本籍地から約10km
森・真中・玉津立畑・草地米山・新栄中伏・御玉中之島	ごく少数	本籍地から約6〜10km

電話帳（1993〜2016年）の推計。注2

大分県の安東は、市ごとに字まで見ると四つのまとまりになります。本籍の長岩屋は、そのうち国東半島の西、豊後高田市のまとまりの東の端にあたります。

まとまり	字（上位）	本籍地から
豊後高田市	来縄 約50、佐野 約40、小田原 約30、美和 約30、蕗 約30	9km
大分市	上宗方 約200、田尻 約200、玉沢 約100、高瀬 約90、月形 約70、上判田住床 約60	38km
臼杵市	大野岩崎 約100、吉小野 約60、江無田 約50、井村 約30、大野高倉 約30、田井 約30	55km
大野郡大野町	中土師 約40、十時 約30、屋原 約10、田中 約10	60km

本籍からの距離は、各市町の中心あたりまで。注2

3 本籍の周りの安東

安東姓が分布する土地を、本籍地の長岩屋からの距離と、各土地の全世帯に占める安東の割合（濃さ）に基づいて並べました。姓の広がりは県境で区切れないため、大分県と、隣接する福岡県・熊本県・宮崎県を一つの図にまとめています。土地の単位には、平成の大合併より前の市町村を用いています。これは、江戸時代の村に一段近い区分です。

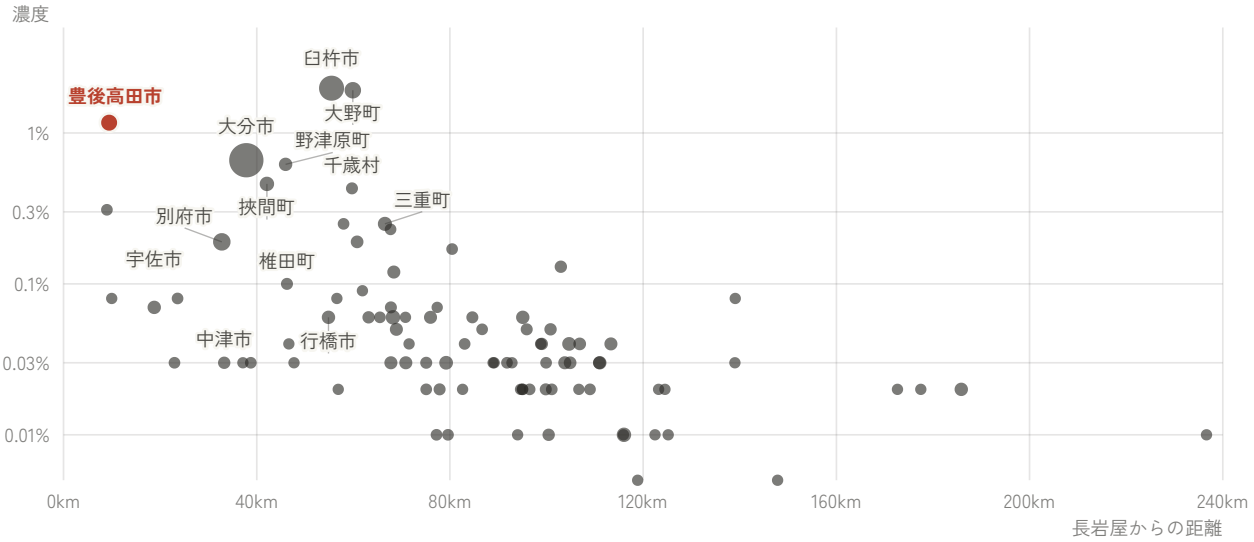

図2 本籍からの距離を横軸、濃さを縦軸に示しています。点の大きさは世帯数を表し、朱色は本籍のある豊後高田市を示します。注3

割合が最も高いのは、県南部の臼杵市（1.98%、192世帯、本籍地から55km）と大野郡大野町（1.92%、34世帯、本籍地から60km）です。本籍地のある豊後高田市は1.17%（60世帯）で、割合ではこれらに次ぎます。豊後高田市の中心は、本籍地から約9kmの近さにあります。世帯数が最も多い大分市は512世帯で、割合は0.66%と4番目です。

本籍地の周辺では、隣の西国東郡大田村も0.31%（2世帯、9km）と割合が高くなっています。福岡県・熊本県・宮崎県の土地は、どれも0.13%以下です。大分県の安東は、国東半島西部の豊後高田と、県南部の臼杵・大野・大分という二つの分布域を形成しています。

旧市区町村（2000年）	世帯	町の全世帯	濃さ	本籍地から	人数（推計）
臼杵市	192	9,697	1.98%	55km	約880
大野郡大野町	34	1,771	1.92%	60km	約80
豊後高田市	60	5,128	1.17%	9km	約300
大分市	512	77,576	0.66%	38km	約2,560
大分郡野津原町	9	1,452	0.62%	46km	約40
大分郡挾間町	15	3,261	0.46%	42km	約50
大野郡千歳村	3	698	0.43%	60km	約10

大野郡三重町	12	4,800	0.25%	67km	約30
別府市	46	24,211	0.19%	33km	約300
西国東郡大田村	2	645	0.31%	9km	ごく少数
大野郡野津町	5	2,632	0.19%	61km	約20
直入郡直入町	2	800	0.25%	58km	約10
大野郡清川村	2	870	0.23%	68km	ごく少数
竹田市	6	5,000	0.12%	68km	約20
糟屋郡新宮町	4	3,077	0.13%	103km	約20

濃さの上位15か所を示しています。本籍のある豊後高田市を含みます。残りの77か所は巻末の付表に掲載しています。注4

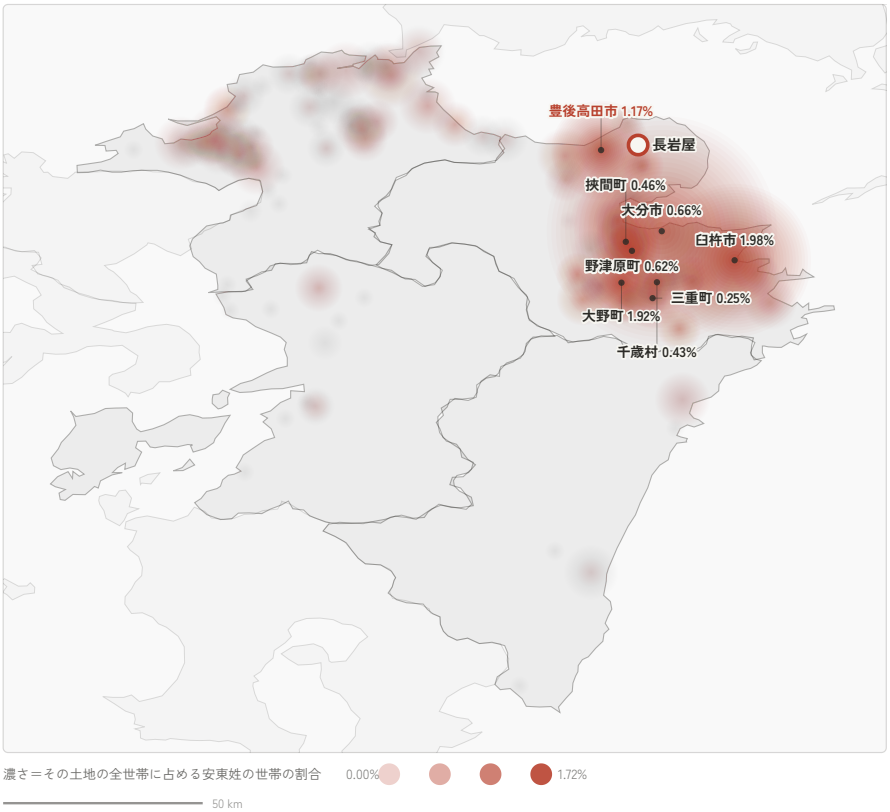

図3 安東の濃さを地図に重ねて示しています。色が濃いほど安東の割合が高く、滲みの広がりは世帯数を表します。朱色は本籍の位置を示します。注5

臼杵・大野の安東をどのように考えるか

県南部の臼杵と大野は、本籍地から55〜60kmの距離にあり、現在の安東の分布が最も濃い土地です。解釈としては、二つの可能性が考えられます。一つは、豊後一国が大友氏の領国として一体的な領域を形成していた時代に、同じ姓の人々が国の中を行き来した結果とみるものです。400年の間に一族が55km移動したと考えても、十分に想定可能です。もう一つは、大野に中世の「安藤名」に当てられる土地があることから

（8・10を参照）、県南部にもう一つの起こりの核があるとみるものです。どちらに当たるかは、戸籍と村の文書を調べ、江戸時代の居所を遡ることで分かります。見立ての中心は、本籍地から約9kmの位置にあり、同じ名字の古い家が続く国東半島西部にあります。

4 長岩屋と都甲のあゆみ

長岩屋は、国東半島の中央部、両子山から西へ流れる都甲川上流の谷にあります。『西国東郡誌』には、長さ一里あまりの峡谷に数百丈の絶壁が連なる土地として記され、「都甲耶馬」と呼ばれていたことや、峡谷の道が東国東郡の上伊美村へ通じていたことが述べられています。都甲川は長岩屋の谷を流れて松行に至り、一畑からの流れと合流して高田へ下ります。注6

年	できごと	出典
弘安8年（1285）	豊後国図田帳には、国東郡都甲荘七十町が宇佐弥勒寺領であり、地頭は都甲左衛門入道西迎の跡であると記されています	後の時代にまとめられた本
江戸時代	長岩屋村は島原藩（松平氏）の領地でした。天明年中（1781〜1789）の六郷山の寺院名簿にも、長岩屋村の天念寺が「島原領」と記されています	後の時代にまとめられた本
享和3年（1803）	『豊後国志』は、長岩屋・加礼川・一畑など九か村を、もとは都甲荘に属していた村として挙げています	後の時代にまとめられた本
明治8年（1875）	第一大区五小区となりました。旧都甲荘の梅木・一畑・加礼川・新城・長岩屋・松行・築地・大力・荒尾・払田の十か村をまとめて「都甲村」と称し、用務所は松行に置かれました	後の時代にまとめられた本
明治17年（1884）	4月、長岩屋に学校の分校が置かれました。同年8月には、長岩屋・築地・松行・大力・荒尾の五か村が連合し、築地に役場を置きました	後の時代にまとめられた本
明治22年（1889）	町村制により、五か村が合併して西都甲村となり、長岩屋はその大字となりました。一方、隣接する新城・加礼川・梅木・一畑は、東都甲村となりました	後の時代にまとめられた本
昭和29年（1954）	町村の合併により、豊後高田市となりました	市の公式の紹介
昭和52年（1977）	国東の修正鬼会が国の重要無形民俗文化財に指定され、長岩屋修正鬼会保存会がその保護団体の一つとなりました	国の文化財の記録
平成29年（2017）	天念寺耶馬および無動寺耶馬が、国の名勝に指定されています	国の文化財の記録

5 近代の名簿

明治（1868〜1912）から昭和（1926〜1989）初期までの名簿と郡誌を調べ、本籍地周辺と大分県内における安東の記載を確認しました。

年	資料	記載
1882年	郡の記録（刊本）	西国東郡長を務めた安東九華が記載されています。原籍は西国東郡河内村で、本籍地から約9kmです
1889〜1923年	郡の記録（刊本）	西都甲村の欄に安東の記載はありません

1918〜1923年	郡の記録（刊本）	東都甲村は長岩屋の東隣にあり、加礼川までは約1.3kmです。同村では、大正7年（1918）8月から安藤亀松が村長を務め、青年会長も兼任していました。郡誌は姓を「安藤」の字で載せています
1928年	会社・商工の名簿	北海部郡臼杵町の安東新平が、日本満俺鉱業の監査役として記載されています
1931年	会社・商工の名簿	北海部郡臼杵町の安東久兵衛の名が記載されています
1932年	会社・商工の名簿	西国東郡高田町の安東正夫の名が記載されています（本籍地から約10km）

安東の名が名簿に見られる河内村・高田町（現在の豊後高田市）と臼杵町（現在の臼杵市）は、字ごとの分布で安東姓が濃い二つの土地と重なります。本籍の隣にある東都甲村では、姓を「安藤」と表記する村長が確認されています。長岩屋の安東家が「安東」と「安藤」のどちらの字で書かれてきたかは、除籍で分かります。注7

6 菩提寺と考えられる寺

本籍地の長岩屋から半径9km以内にある寺を挙げました。いずれも菩提寺と考えられる寺にとどまるため、ご本家、位牌、過去の戸籍などで確認する必要があります。

寺	宗派	本籍地から	覚え
長岩屋山 天念寺	天台宗	0.6km	長岩屋にある寺です。六郷山の中山の寺で、正月には修正鬼会が行われます
金剛山 長安寺	天台宗	0.9km	屋山の中腹にあります。郡誌によると、近くには吉弘家ゆかりの五輪塔が並んでいます
富貴寺		4.5km	田染蕗の寺
両子寺		5.3km	両子山の寺
萬弘寺		6.9km	
西叡山 高山寺	天台宗	8.1km	六郷山の寺
岩戸寺		8.3km	修正鬼会の保護団体のある寺
真木大堂		8.7km	田染真中

国東半島には、六郷満山の寺が数多く残っています。長岩屋は、その中山の寺である天念寺の門前にあたります。長岩屋の家の菩提寺は、天念寺か、都甲の谷にある別の寺である可能性が高いと考えられます。注8

7 江戸時代の村と家

長岩屋村は島原藩の領地で、村の寺は天念寺でした。同じ西国東郡内では、本籍地から約9kmの河内村佐野に、江戸時代を通じて庄屋を務めた安東家がありました。なお、郡誌では庄屋を「里正」と表記しています。

事柄	内容	出典
領主	長岩屋村は島原藩（松平氏）の領地でした	後の時代にまとめられた本
村の寺	天明年中（1781〜1789）の六郷山の寺院名簿に、長岩屋村の長岩屋山天念寺は山門の末寺、本堂は観音、六所権現を祀り、寄付五石八斗、山林境内百間四方とあります	後の時代にまとめられた本
道	長岩屋を経て東国東郡の赤根村へ通じる道がありました	後の時代にまとめられた本
1786年	国東の学者・三浦梅園の長女、類子の婿に安東貞五郎が入りました。梅園は、自身が杵築藩主に召された経緯を、この婿に書き送っています	後の時代にまとめられた本
18世紀	中津藩の医師、征矢野元甫の碑銘には、元甫の姉が「豊後安東氏」に嫁いだと記されています	後の時代にまとめられた本
1825年	安東九華（名は宗明、通称は貞五郎）は、文政8年に佐野の家に生まれました。帆足万里に学んだ後、庄屋の職を継ぎ、明治8年に戸長、明治15年に西国東郡長、明治23年に衆議院議員となりました	後の時代にまとめられた本
1832年	河野通卿が天保3年に河内村佐野の安東家に生まれ、田染の河野家を継いで田染大庄屋となりました	後の時代にまとめられた本
1832年ごろ	豊後の画家・田能村竹田が、大分の安東氏の家に滞在し、「考盤図」を描き上げました	後の時代にまとめられた本
1861〜1864年	文久年間（1861〜1864）に、河内村の安東貞斎が座繰りの製糸を試みています	後の時代にまとめられた本

佐野の安東家は、江戸時代を通じて庄屋を務め、学者の家とも縁を結びました。通称の「貞五郎」は、天明年間（1781〜1789）と文政年間（1818〜1830）の二代に見られます。長岩屋の安東家が江戸時代にどの村にいたかは、島原藩領の村の宗門改帳と、天念寺をはじめとする寺の過去帳で分かります。注7

8 中世・戦国の記録

本籍地周辺と、安東の名が見られる土地について、中世から戦国時代にかけての記録を土地ごとに整理しました。「考察」は、その記録が本籍の家にどうつながりうるかについての、現時点の見方です。

都甲荘（長岩屋を含む荘）

人物	地頭 都甲左衛門入道西迎、その子 五郎左衛門惟近
記録	弘安8年（1285）の豊後国図田帳には、国東郡都甲荘七十町が宇佐弥勒寺領として記載されています。また、地頭である西迎の跡を、その子の五郎左衛門惟近が継いだとあります。郡誌は註で、大友家臣の姓氏録に大神の姓の惟近が載ることを挙げ、大神の系図の上でどの流れにあたるかは詳らかでない、と添えています
出典	『西国東郡誌』第一章（弘安図田帳・図田帳標註・『豊後国志』を引く）
本籍地から	0km（本籍の荘）
考察	本籍地の長岩屋は、中世の都甲荘に含まれていました。この荘の地頭を継いだ惟近と同名の人物が、大神姓の人物として大友家臣の姓氏録に記載されています。郡誌は、大神氏を安東の先祖と記しています。ただし、両者が同一人物かどうかは、郡誌の註でも見込みにとどまります

長岩屋山 天念寺（六郷山）

記録	六郷山の諸勤行の目録には、中山の分として長岩屋が記載されています。本尊は観世音菩薩で、正月の修正会を四日から六日まで三夜勤めると記されています。また、弘安7年（1284）の異国降伏の祈りの巻数目録にも、中山の長石屋が七箇日の不動の行法を勤めたとあります。暦応元年（1338）の六郷山の文書は、屋山の例講の役を月ごとに割り、六月を長岩屋に当てています
出典	『西国東郡誌』第十四章 六郷満山の古仏刹
本籍地から	約0.6km
考察	本籍地の長岩屋は、鎌倉時代から六郷山の寺の一つとして記録されている土地です

長岩屋の筧城と屋山（吉弘氏）

人物	吉弘采女（伝）、吉弘鑑理、吉弘統幸
記録	郡誌は『西都甲郷土誌要』を引き、享禄年間（1528〜1532）に吉弘采女が長岩屋に筧城を築き、都甲村・上真玉村を領したと記しています。一方、郡誌の編者は、吉弘氏の歴代の系譜に采女の名が見えないことを添え、筧城の築城時期を享禄年間（1528〜1532）よりかなり前と見ています。同じ章の吉弘氏の系図では、鑑理・統幸らが筧城主とされています
出典	『西国東郡誌』第六章 吉弘氏
本籍地から	約1〜2km（屋山のふもと。加礼川まで約1.3km）
考察	戦国期の本籍地周辺は、大友氏の一族 吉弘氏の城の足もとにあたります

佐野 鞍懸城の戦い

人物	安東宮内丞、安東大膳亮、安東外記
記録	天正8年（1580）、田原親貫が大友氏に背いて鞍懸城に立てこもった戦いに関して、大友親家・田原紹忍・大友義統が安東宮内丞らに宛てた書状が9通収録されています。宮内丞は大友方の地侍として鞍懸の包囲に加わり、閏三月に傷を負いました。百貫の郷を治め、人夫を出す立場にあったことも書かれています
出典	『西国東郡誌』第二十九章 古文書（高田町の安東家と、玉津の家に伝わる文書）
本籍地から	約9.4km
考察	本籍地から約9kmの土地で、同じ姓を持つ人物が戦ったことが、同時代の書状に残っています。長岩屋の家がこの人物の系譜につながる可能性があります

佐野の安東家（郡誌の人物の章）

人物	十四世 安東宮内少輔鎮景、その弟 統貞
記録	郡誌の人物の章は、安東九華の家の先祖を大神惟基とし、代々大友氏に仕えたと記しています。鎮景は天正8年に弟の統貞とともに田原親貫を攻めて佐野を賜り、その子孫が佐野に住み続けたとあります
出典	『西国東郡誌』第二十六章 人物 第九
本籍地から	約9.4km
考察	書状の宮内丞と郡誌の鎮景は、どちらも宮内の官途で天正8年の鞍懸に出ており、同じ人と考えられます

大野郡の安東村

記録	豊後国図田帳の「安藤名 六町六段」に注が付き、編者はこれを大野郡安東村に当てています。いまの豊後大野市大野町安藤にあたります
出典	『増補訂正 編年大友史料』1942年（豊後国図田帳の注）
本籍地から	約53km
考察	鎌倉時代の土地名に、安東（安藤）が登場します。現在も大野町は、県内で安東姓の割合が2番目に高い町です

9 土地に伝わる話

土地に伝わる話をまとめたものです。家の系譜を裏づけるものではなく、土地に伝わる記憶として付記しています。

土地	伝えられる話	本籍地から	出典
屋山・長岩屋城	慶長5年（1600）の石垣原の戦いで吉弘統幸が討たれた後、長岩屋城にこもった吉弘の家臣を黒田如水の兵が攻めたと、地域に伝わっています。また、統幸の妻が武装して屋山城に拠り、戦ったとも伝えられています。姫君が落とされた岩は「姫落し」と呼ばれています	約1〜2km	後の時代にまとめられた本
長岩屋（天念寺）	正月の修正鬼会は、鬼の芸能によって福を招き、災いを除くものとされてきました	約0.6km	国の文化財の記録

安東（姓）	豊後の安東は大神氏の流れであると、郡誌の人物の章は記します	—	後の時代にまとめられた本
安藤（豊後大野市大野町）	中世の図田帳にある「安藤名」に比定される土地です	約53km	後の時代にまとめられた本

10　家の起こりについての考察

安東の家の起こりとして伝わる土地は、二つあります。一つは、郡誌が先祖と記す大神氏の流れです。もう一つは、中世の図田帳に登場する大野郡の安東村です。どちらも、本籍の家につながる可能性があります。本籍地から約9km離れた高田・佐野には、天正8年（1580）の書状を伝え、江戸時代に庄屋を務めた同じ名字の家があります。次の図では、この三つの土地と鞍懸城の戦いを、時代の帯に沿って示しています。

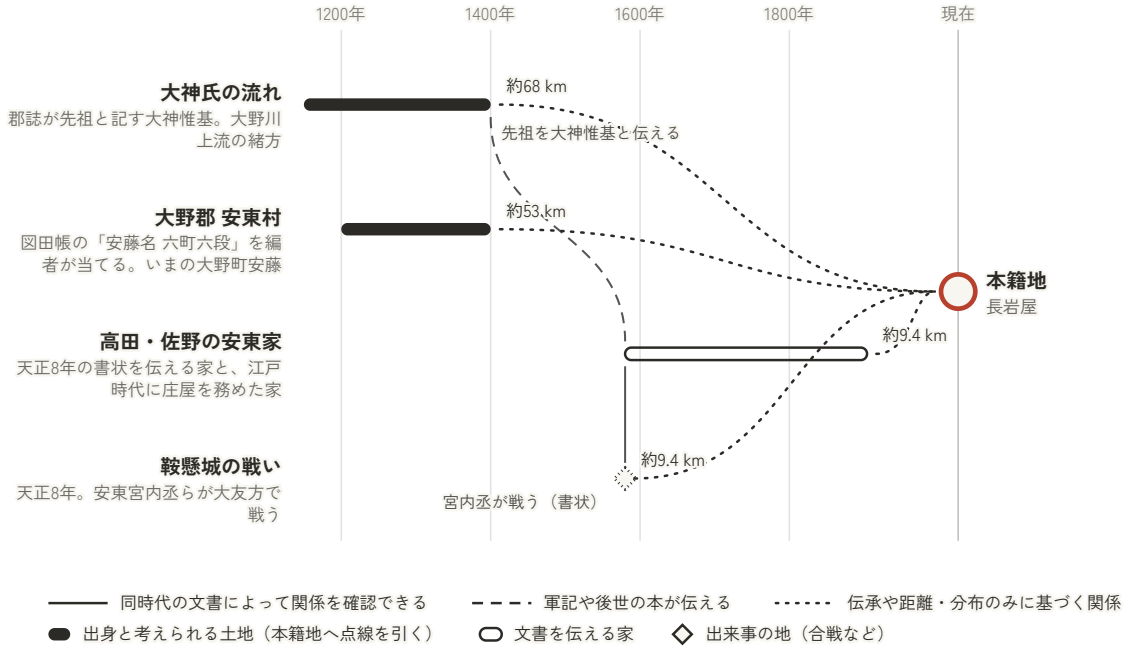

図4 起こりとして伝わる土地と、同じ名字を持ち文書を伝える家、鞍懸城の戦い（菱形）を、時代ごとに示しています。線の種類は、本籍の家とのつながりを示す資料の強さを表します。注9

大神氏の流れ（豊後大野市緒方町） 出身地と考えられる土地

人物と事柄　郡誌の人物の章では、佐野の安東家の先祖を大神惟基と記しています。図では、大神氏の流れを伝える土地として、大野川上流の緒方を示しています

資料　『西国東郡誌』人物 第九（後の時代にまとめられた本）

年代　平安の末から鎌倉時代

本籍地から　約68km

考察　郡誌の註は、本籍地の都甲荘で地頭を継いだ惟近と同名の人物が、大神姓の大友家臣として姓氏録に記載されていることを挙げています。都甲荘の地頭と安東の先祖が大神姓で重なる見込みがあり、本籍の家がこの流れに属する可能性があります

大野郡 安東村（豊後大野市大野町安藤） 出身地と考えられる土地

人物と事柄　図田帳の「安藤名 六町六段」に比定される土地です。現在も、大野町では安東姓の割合が県内で2番目に高く、1.92%を占めています

資料　『増補訂正 編年大友史料』の注（編者の比定）

年代　鎌倉時代

本籍地から　約53km

考察　地名と姓が一致する土地です。本籍の家がこの流れである可能性があります

高田・佐野の安東家（豊後高田市） 文書を伝える家

人物と事柄　天正8年（1580）の鞍懸城の戦いで大友方として働いた安東宮内丞らに宛てた書状を伝える家です。あわせて、郡誌が鎮景の子孫として伝え、江戸時代に庄屋を務めた佐野の家を示しています

資料　『西国東郡誌』第二十九章 古文書（同時代の書状の翻刻）／同 人物 第九（後の時代にまとめられた本）

年代　天正8年（1580）から明治（1868〜1912）まで

本籍地から　約9.4km

考察　江戸時代に人が行き来できる距離としては、十分に近い土地です。長岩屋の安東家がこの流れに属する可能性があり、菩提寺の過去帳を調べて江戸時代の当主まで遡れば、照合できます



図5 同じ土地を地図で見たもの。北が上。輪は本籍からの距離。注10

三つの土地のうち、本籍地に最も近いのは約9km離れた高田・佐野です。戦国時代の書状、江戸時代の庄屋、現在の字別の分布が、同じ一帯に重なっています。大神氏の流れと大野郡の安東村は、高田・佐野につながる前の起こりとして伝わる土地です。

11 まとめ

安東家は、国東半島の奥にある長岩屋に本籍を置く家です。長岩屋は、六郷山の天念寺の門前にあたります。安東姓は、大分県に最も多い姓です。本籍地から約9km離れた高田・佐野には、天正8年（1580）の書状を伝え、江戸時代に庄屋を務めた同じ名字の家が続いています。これらのことから、長岩屋の安東家は、国東半島西部に根を張った安東の流れに属する可能性が十分にあります。

- 安東姓は全国に約1万6,700人おり、都道府県別では大分県が約4,600人で最も多くなっています。県内での割合は、臼杵市（1.98%）、大野町（1.92%）、豊後高田市（1.17%）の順に高くなっています。豊後高田市の中心は、本籍地から約9kmの距離にあります。
- 豊後高田市の安東は約300人で、来縄・佐野・小田原・美和・蕗など、桂川の流域に集まり、本籍地の長岩屋と、都甲の谷の一畑・荒尾にもいます。
- 長岩屋は、鎌倉時代から六郷山の寺の一つとして記録されている土地で、中世は都甲荘、江戸時代は島原藩領の長岩屋村でした。明治22年（1889）からは西都甲村の大字です。
- 家の起こりとして、二つの土地が伝わっています。一つは、郡誌が先祖と記す大神氏の流れで、その土地の緒方は本籍地から約68kmです。もう一つは、中世の図田帳に登場する大野郡の安東村で、本籍地から約53km離れています。どちらも本籍の家の流れである可能性があります。
- 本籍地から約9km離れた佐野では、天正8年（1580）の鞍懸城の戦いで、安東宮内丞らが大友方として戦いました。この戦いに関する9通の書状は、高田の二つの家に伝わっています。郡誌には、佐野の安東家の先祖は大神惟基であり、宮内少輔鎮景が佐野を賜ったと記されています。この家は江戸時代にも庄屋を務め、天明6年（1786）の安東貞五郎や、文政8年（1825）生まれの安東九華を輩出しています。
- 遡れる年代の見込み：除籍では、明治19年式（1886年）まで遡れます。江戸時代については、長岩屋村の宗門改帳と、天念寺をはじめとする寺の過去帳が手がかりになります。戦国時代の記録としては、本籍地から約9km離れた佐野・高田に9通の書状が伝わっています。

鞍懸城に関する書状は、同時代に書かれた確かな記録です。一方、佐野の家の先祖の話は、後世に編纂された郡誌の記載によるものです。大神氏と安東村は、伝承と地名によるものです。これまでの調査から、安東家の先祖は、戦国時代に大友方として国東で戦い、江戸時代に佐野で庄屋を務めた安東一族の中にいたと考えられます。その一族のうち、六郷山のふもとの長岩屋に住んだ家が、安東家であると考えられます。

注　図表の説明

注1　電話帳（1993〜2016年）の推計です。色の段階は、人数のある都道府県を人数の順に五等分して決めています。

注2　字ごとの人数は、電話帳（1993〜2016年）によります。2026年9月20日に閲覧しました。人数は10人単位に丸めており、10人に満たない字は「ごく少数」と記しています。同じ大字に属する字（来縄・来縄上南・来縄雲林など）は、一行にまとめました。距離は、国土地理院の住所検索で求めた位置間の直線距離です。

注3　横は本籍の長岩屋からの直線距離、縦はその市町村の全世帯に占める安東の割合、点の大きさは世帯数です。地名を示したのは、安東の割合が高い土地と本籍に近い土地の14か所で、残りは点だけです（付表にあります）。

注4　世帯数と濃さは、電子電話帳（2007年。単位は平成の大合併前の市町村）に基づいています。人数は、電話帳（1993〜2016年）の推計です。合併した土地の人数は、世帯数の割合に応じて、合併前の市町村に割り振っています。「ごく少数」は10人に満たない地域を指します。世帯数は電話帳に掲載された家の数であるため、実際の世帯数より少なく算出されます。並びは、世帯数の少ない村で割合が過度に高くならないよう、控えめに見積もった濃さの順です。町の全世帯数は、世帯数と割合から逆算した概数です。距離は、市町村の中心付近までの直線距離です。

注5　色の濃さは注4と同じ濃さ、滲みの広がりは世帯数です。県の形は国土数値情報（国土交通省）によります。

注6　『西国東郡誌』第十五章 第二十四節（長岩屋）と、第二十八章 西都甲村の項によります。距離は国土地理院の住所検索で求めた長岩屋の位置からの直線距離です。

注7　国立国会図書館デジタルコレクションの画像によります。

注8　寺の位置と宗派は OpenStreetMap によります。地図に載っていない寺や名前のない寺は出ません。宗派は地図の記載によるもので、記載のない寺は空欄です。

注9　横軸は時代を示しています。図には、家の起こりとして伝わる大神氏の流れと大野郡の安東村、同じ名字の文書を伝える高田・佐野の安東家、天正8年（1580）の鞍懸城の戦い（菱形）を示しています。大神氏から高田・佐野の家へ向かう破線の矢印は、郡誌の人物の章が先祖を大神惟基と伝えていることを示します。家から鞍懸城へ向かう実線の矢印は、宮内丞が戦ったことを同時代の書状が伝えていることを示します。本籍地へ向かう点線は、いずれも距離と分布に基づく推定を示します。戸籍や人別帳などの資料によってつながりが確認できれば、実線で示します。

注10　大神氏を伝える緒方、大野郡の安東村（豊後大野市大野町安藤）、高田町の安東家、鞍懸城のある佐野、本籍の長岩屋を置いています。県の形は国土数値情報（国土交通省）、海岸線と川は OpenStreetMap によります。

注　資料の確認状況

原本の画像で確かめた資料　刊行された郡誌・史料集・全集・名簿の該当の頁（見本では伏せています）。

所蔵機関の目録の記載による資料　国の文化財の記録。

付表　本籍の周りの安東（続き）

旧市区町村（2000年）	世帯	町の全世帯	濃さ	本籍地から	人数（推計）
南海部郡宇目町	2	1,176	0.17%	80km	約10
北九州市小倉南区	16	26,667	0.06%	68km	約100
宇佐市	9	12,857	0.07%	19km	約40
築上郡椎田町	3	3,000	0.10%	46km	約10以上
行橋市	9	15,000	0.06%	55km	約40
筑紫野市	8	13,333	0.06%	95km	約40
佐伯市	7	11,667	0.06%	76km	約20
田川郡川崎町	3	4,286	0.07%	68km	約20
津久見市	4	6,667	0.06%	63km	約20
田川市	6	12,000	0.05%	69km	約30
宇佐郡安心院町	2	2,500	0.08%	24km	約10
福岡市東区	10	25,000	0.04%	105km	約50
遠賀郡水巻町	3	5,000	0.06%	85km	約20
山鹿市	4	8,000	0.05%	101km	約20
福岡市西区	7	17,500	0.04%	113km	約30
福岡市中央区	5	12,500	0.04%	107km	約40
糟屋郡宇美町	3	6,000	0.05%	96km	約20
田川郡香春町	2	3,333	0.06%	66km	ごく少数
北九州市八幡西区	10	33,333	0.03%	79km	約100
大野郡朝地町	1	1,111	0.09%	62km	ごく少数
大野城市	4	10,000	0.04%	99km	約30
延岡市	8	26,667	0.03%	111km	約50
福岡市南区	7	23,333	0.03%	104km	約50
北九州市小倉北区	7	23,333	0.03%	71km	約50
北九州市門司区	7	23,333	0.03%	68km	約40

八代郡宮原町	1	1,250	0.08%	139km	ごく少数
西国東郡香々地町	1	1,250	0.08%	10km	ごく少数
大野郡犬飼町	1	1,250	0.08%	57km	ごく少数
遠賀郡遠賀町	2	4,000	0.05%	87km	約10
福岡市早良区	5	16,667	0.03%	111km	約60
福岡市博多区	5	16,667	0.03%	105km	約40
嘉穂郡碓井町	1	1,429	0.07%	77km	ごく少数
中津市	4	13,333	0.03%	33km	約30
糟屋郡粕屋町	2	5,000	0.04%	99km	約10
鞍手郡宮田町	2	5,000	0.04%	83km	ごく少数
田川郡方城町	1	1,667	0.06%	71km	ごく少数
北九州市戸畑区	3	10,000	0.03%	75km	約20
宮崎市	8	40,000	0.02%	186km	約40
豊前市	2	6,667	0.03%	39km	約10
宗像郡福間町	2	6,667	0.03%	100km	ごく少数
遠賀郡岡垣町	2	6,667	0.03%	92km	約10
速見郡日出町	2	6,667	0.03%	23km	約10
大分郡庄内町	1	2,500	0.04%	47km	ごく少数
田川郡糸田町	1	2,500	0.04%	72km	ごく少数
直方市	3	15,000	0.02%	78km	約10
春日市	3	15,000	0.02%	100km	約10
熊本市	14	140,000	0.01%	116km	約70
太宰府市	2	10,000	0.02%	95km	約10
北九州市八幡東区	2	10,000	0.02%	75km	約20
福岡市城南区	2	10,000	0.02%	109km	約10
宗像市	2	10,000	0.02%	96km	約20
古賀市	2	10,000	0.02%	101km	約20
八代郡鏡町	1	3,333	0.03%	139km	ごく少数
大分郡湯布院町	1	3,333	0.03%	37km	ごく少数
北海部郡佐賀関町	1	3,333	0.03%	48km	ごく少数
遠賀郡芦屋町	1	3,333	0.03%	89km	ごく少数
朝倉郡夜須町	1	3,333	0.03%	89km	ごく少数

三井郡北野町	1	3,333	0.03%	93km	ごく少数
久留米市	4	40,000	0.01%	100km	約20
菊池市	1	5,000	0.02%	95km	ごく少数
玉名郡長洲町	1	5,000	0.02%	124km	ごく少数
菊池郡西合志町	1	5,000	0.02%	107km	ごく少数
葦北郡芦北町	1	5,000	0.02%	173km	ごく少数
糟屋郡篠栗町	1	5,000	0.02%	95km	ごく少数
鞍手郡鞍手町	1	5,000	0.02%	83km	ごく少数
東諸県郡国富町	1	5,000	0.02%	177km	ごく少数
東臼杵郡門川町	1	5,000	0.02%	123km	ごく少数
京都郡苅田町	1	5,000	0.02%	57km	約10
北九州市若松区	2	20,000	0.01%	77km	約10
飯塚市	2	20,000	0.01%	80km	約10
荒尾市	1	10,000	0.01%	122km	ごく少数
玉名市	1	10,000	0.01%	116km	ごく少数
小郡市	1	10,000	0.01%	94km	約10
前原市	1	10,000	0.01%	125km	ごく少数
串間市	1	10,000	0.01%	237km	ごく少数
八代市	1		0.00%	148km	ごく少数
大牟田市	1		0.00%	119km	ごく少数

注　出典

電話帳の集計（2種）／刊行された郡誌・史料集・全集・名簿（国立国会図書館デジタルコレクションの画像）／国と市の公開の記録／OpenStreetMap／国土数値情報（国土交通省）／国土地理院。見本では、出典の資料名・所在・頁を伏せ、資料の種類だけを記した。

画像は転載していません。この冊子は、見立ての例を示す見本です。家の名前と本籍は架空のものです。